

# 表語文字の字形比較のための 語彙リストの考案\*

## —比較文字学の研究手法構築に向けて—

木村規高†

キーワード： スワデシュリスト、文字の語彙リスト、比較文字学

### 1 はじめに

複数の文字間の系統関係や文化的伝播を証明するために、比較文字学の手法がとられることがある。しかしながら、その研究手法はしばしば論理性に欠け、19 世紀に確立されて以来初期段階にとどまっていると言われていた (周有光 2002: 3)。具体的には、音声の類似度の比較と比べ、字形の比較は類似性の判断が主観的であり比較項目が定められていない点や、対象となる字の選定が恣意的であるといった点が挙げられる。

このような状況の中で、Iwasa (2018) では新たな研究手法を提供している。この研究は、中国少数民族文字の彝文字<sup>1</sup>の地域差に着目した研究であり、語彙リストの 1 つであるスワデシュリストの重要単語 100 語を表す彝

---

\*本稿は JSPS 科研費、JP24KJ0477 の助成を受けた。

†筑波大学大学院人文社会科学研究群博士後期課程

<sup>1</sup>彝文字とは、中国少数民族の 1 つである彝族が、彼らの話す彝語を表記するために伝統的に用いてきた文字である。文字の類型は表語文字であるが、仮借字が多く使われるようになり、漢字のように整った体系ではない。

文字を 9 つの地域<sup>2</sup>ごとにマッピングしたものである。研究の目的の 1 つに共通する字形の発見があり、75%以上の地域に共通する字形が確認された場合に、その字形を基本彝文字 (Basic Yi character) と定義している (Iwasa 2018: 9)。この基本彝文字は、いわゆる多数決によって決まる字形ではあるが、文字言語研究は音声言語研究とは異なり、要素の対応関係や変化の規則が明確ではないことから、音法則に対応するような「字法則」はまだ存在しない。そこで、比較言語学においても最も初歩的な手段として多数決が取られることがあるように、Iwasa (2018) においてもこのような手段によって、基本彝文字という祖型の概念にあたるものを定義したと推察される<sup>3</sup>。また、字形の比較や分布から字形の歴史的な変化や、考えられる伝達ルートを探ろうとする目的があることが明記されている (Iwasa 2018: 7)。

このように、Iwasa (2018) の研究は比較文字学に目を向けた研究であることが伺え、これを表語文字の比較研究における一般的な方法として用いることも可能だと考える。しかしながら、スワデシュリストを用い、それを比較軸として字形の比較を行うには、いくつか問題点が含まれていることも見て取れる。

スワデシュリストとは何かを詳しく述べると、これはアメリカの言語学者モリス・スワデシュ (1909-1967) が考案したリストであり、主に言語間の関係の距離を測定するために基礎語彙を集めた語彙リストである<sup>4</sup> (Swadesh 1952: 456-457)。特に、普遍的で文化的な影響を受けにくく、さらに借用が起きにくいとされる語彙を選別している (Swadesh 1952: 457)。これらの特徴から、スワデシュリストを用いた比較文字研究は、字のサンプリングという点では有効であると考えられるが、一方で、本来は音声言語

---

<sup>2</sup>彝語は一般的に 6 つの方言 (6 大方言) に分かれるが、Iwasa (2018) の文字の研究では 9 つの区分が用いられているため、6 大方言との対応関係を以下に示す。なお 6 大方言のうち中部方言と西部方言には文字を使用してきた形跡がほとんどないため、調査対象となっていない。

東南部方言：路南

東部方言：禄勳、大方、威寧、盤県、隆林

北部方言：喜徳

南部方言：双柏、墨江

<sup>3</sup>結果として、約 40%に当たる 42 語にある程度共通した字形が確認でき、基本彝文字として定めることができたとしている (Iwasa 2018: 9-11)。

<sup>4</sup>代表的なスワデシュリストは 207 語から構成されるが、その中でも最重要単語として 100 語のみ用いられる場合がある。Iwasa (2018) の研究では後者のリストを用いている。

研究において用いられるものであり、文字言語研究、特に比較文字学研究に応用するには検討の余地がある。つまり、音声言語と文字言語で借用される可能性のある語彙であったり、基礎となる語彙は異なるのではないか、ということである。

そこで本稿では、Iwasa (2018) における問題点を確認し、その上で個別文字体系の調査や 2 つの文字体系間の距離の測定、字形の比較といった文字研究に適したリスト (以下：文字の語彙リスト) の作成を試みたい。特に表語文字は、語の数だけ字が存在するとも言え、すべての字を比べることは困難であるため、語を比較軸としたこのようなリストの考案は今後の文字研究において重要な課題であると考えられる。

## 2 先行研究の具体的問題点

### 2.1 文字化しにくい概念について

問題点の 1 つ目が文字化しにくい概念である。このような語彙は、音声言語としては欠かせない語彙であっても、文字の世界においては仮借で表される可能性が高いと推察される。仮借というのは、許慎がまとめた漢字の構成原理である「六書」でいうところの造字法で作られた字ではなく、別の語を表す字から転用した用字法で作られた字である。つまり、元々はこの語を表す字ではなく重要とは言えない。

実際に Iwasa (2018) の研究結果を見てみると、“what” は 9 つの地域のうち、8 つの地域にて 2 音節語に対して 2 字でその意を表している。そして、音韻面では類似性が見られるが、禄勸と盤県の 1 音節目を表す字が類似していることを除いて各々異なった字を用いている。したがって、表音文字として機能している可能性と、仮借の用法を用いた結果、地域によって異なる字を借りてきた可能性の 2 つが指摘できる。

“all” について見てみると、9 つの地域のうち 4 つの地域でその意を表す字自体が確認されていない。また、それ以外の地域では共通性が全くみられない。つまりこれも上記と同様の指摘ができる。それに加えて、字が存在しないということは文字の世界においては“all”という語彙が基礎語彙、もしくは重要語彙とは言えないのではないだろうか。

## 2.2 幅広い意味をもつ語について

音声言語研究で用いられるスワデシュリストにおける問題の 1 つとも言えるのが、対象となる意味が言語によっては幅があったり複数存在する場合があるという点である。それは単に比較を難しくしているだけでなく、偶然の一致の可能性も高めるため避けるべきである。

単純な語彙の多義性であれば、“cold (of the weather)” のように語彙をより細かく指定することによって解決可能であるが、それが言語間で一対一では対応しない場合に問題となる。例えば、“night” は時間帯によって細かく語彙が分かれている言語もあり、Iwasa (2018) の研究からわかるように、彝語の “night” に当たる語彙は、地域によっては「日暮れ」、「日没から夜明け」、「夜」の 3 つに細分化されている。その一方で、このような区別がない地域もあり、語彙や文字の比較を複雑にさせている。また、動詞の場合、言語によっては自動詞と他動詞で語彙が分かれているケースがある。Iwasa (2018) の研究では、“to burn” がその一例である。

## 2.3 文字化しやすい概念について

2.1 節で述べた文字化しにくい概念とは逆に、形ある概念で、その形が特徴的かつはっきりと表せる語は、いかなる表語文字体系間でも類似する可能性があるという点で、文字の比較には適さないと考える。

同じ文字体系内の地域差を比較した Iwasa (2018) の研究では、この問題点は顕著に現れない。しかし一例として、“egg” を表す字は、基本的に “egg” の外形をそのまま象った円形であり、それが多少楕円形であるか、その中心部に点画が置かれているかといった微妙な違いが地域間で存在する。これが各地域に分散する前に共通する字形を有していたのか、それとも各地域に分かれた後に作られた字なのか考えたとき、一般的にはその類似性から前者の説が有力である。しかし、文字化しやすい概念では後者の可能性も否定できない。なぜなら偶然の一致により、実際に字形を共有していた事実がなくとも、字形が類似する可能性があるからである。特に、異なる表語文字間の比較を行った場合に問題がより明確になり、正確な貸借関係や系統関係の判断ができない。比較文字学研究においてこれらの語

彙を表す字の字形の一致をもって類似性があると指摘するのは、偶然の一致が生まれやすいという点で危険であると言える。

### 3 文字の語彙リストの考案

前節での検討を踏まえたうえで、本節では文字研究に適したリストの考案を試みる。本稿では基本的な文字の語彙リストに加え、複数のリストを作成することで、多角的な視点からの比較を目指す。例えば、2.3 節で述べた文字化しやすい概念は新たな比較観点の 1 つになり得る。したがって、後述するように、象形の具体度を測る文字の語彙リスト (3.2 節)、語を象徴する概念を比べる文字の語彙リスト (3.3 節)、数を表す文字の語彙リスト (3.4 節) の考案も提案する。また、それぞれのリストの比較観点については第 4 節で後述する。

#### 3.1 基本的な文字の語彙リスト

基本的な語彙リストについては、主にスワデシュリストの語彙を採用する。しかし、前節の検討から、文字の語彙リストには適さないと考えられる語彙が存在するため、これらを除外する。

文字化しにくい概念については、Iwasa (2018) で研究対象となっていた彝文字と、整った表語文字体系である漢字、また經典文字として使われ、意味が伝わる場合には必ずしも字を表記しないトンバ文字の 3 つの系統の異なる表語文字を例に取り、仮借字の可能性をみることで正当性を主張したい。注釈がない場合、以下の字典を参照した：漢字が『角川新字源 改訂新版』(小川ほか (編): 2017)、彝文字が『漢彝簡明詞典』<sup>5</sup> (武自立・紀嘉尧 (編) 2011)、トンバ文字が『納西象形標音文字字典』(李霖燦: 2001) と『納西象形文字譜』(方国瑜: 2017) である。

<sup>5</sup>『漢彝簡明詞典』における彝文字の地域区分の名称と 6 大方言の対応関係を以下に示す。  
Iwasa (2018) に同じく、中部方言と西部方言地域は対象となっていない。

東南部方言：路南、弥勒

東部方言：禄勐、大方

北部方言：涼山

南部方言：墨江

現時点では、文字化しにくい概念という定義があいまいであるが、2.1 節の“what”と“all”の事例から、「具体的なものや行動ではない抽象的な概念」だとおおよそ推測される。まず“what”の事例は疑問詞であるため、言い換えれば文脈依存性が高い語彙である。疑問詞は彝文字の事例のほか、トンバ文字において、“who”と“how”は仮借字であり、漢字でも“what”を表す「何」は仮借字であることが確認できるが、指示詞についても文字化しにくいといえることができる。例えばトンバ文字では、“he”が容易に表現できない字であるがゆえに仮借字で表され、“I”と“you”もときに仮借字が用いられる。彝文字も、“I”や“he”は、それぞれ禄勳と凉山地域で複数の字形の全く異なる字があることが確認される。そのため、仮借字の用法が蔓延している可能性を指摘できる。さらに漢字も、1人称を表す「我」は、元々ノコギリの形を象った字形であり、仮借字であることが知られている。

後者の“all”は、抽象的範囲の概念を表す語であると言える。“all”のほか、スワデシュリストの語彙では“many”, “some”, “few”, “other”の4語が抽象的範囲の概念を表すと考えられる。これらは彝文字では語彙がない事例はなかったものの、疑問詞の事例と同様に、地域ごとに音価は類似しているが字が異なり、仮借字で表されている可能性は否定できない。またトンバ文字に関しては、有力なトンバ文字字典である『納西象形標音文字字典』(李霖燦: 2001) や『納西象形文字譜』(方国瑜: 2017) におけるこれらの語彙の掲載はなく、用字法の記載もない。喻遂生 (2008: 29-30) は、トンバ文字は主要な語のみ記録するという特徴があり、虚詞や抽象的語彙はしばしば表記せず、それゆえ仮借字も比較的少ないと述べている。つまり、字典に記載のないこれらの語彙は、文字化しにくい概念というよりも、文字言語として必ずしも必要ではなく、文字の世界では基礎語彙、もしくは重要な語彙と言えないことがわかる。

これに加えて、同じく具体的対象でなく抽象的否定概念を表す“not”についてもやはり文字化しにくい語と言える。トンバ文字は仮借字ではないものの、彝文字は孔祥卿・史建偉 (2010: 86) によると、漢字で同じ意味を表す「毋」からそのまま借用している。その漢字では、“not”を意味する1つである「不」の字が仮借字で表されている。

最後に、100 語のリストには含まれていないため Iwasa (2018) の研究からは見て取れなかったが、機能語もこれに当たると言える。彝文字においては、丁椿寿 (1993) にて「1 字が複数の意味をもつ語彙」が掲載されているが、スワデシュリストの語彙のうち、“in”, “and”, “because” が別の語を表す字と同じ字を使用しており、仮借字である。さらにトンバ文字字典にはこれらの語彙の記載がないため、上記と同様の指摘ができる<sup>6</sup>。

以上の実例より、文脈依存性が高い語彙、抽象的範囲の概念を表す語彙、機能語は文字化しにくい、もしくは文字の世界では重要語彙ではないとみなせると考える。したがって、基本的な文字の語彙リストから除外するのは以下の語彙である。

#### [文字化しにくい概念・重要ではない語]

“I”, “you”, “he”, “we”, “you”, “they”, “this”, “that”, “here”, “there”, “who”, “what”, “where”, “when”, “how”, “not”, “all”, “many”, “some”, “few”, “other”, “at”, “in”, “with”, “and”, “if”, “because”

続いて幅広い意味をもつ語について検討する。こちらは語彙の問題でもあるため、スワデシュリストの語彙の中から、その語が指す範囲に言語ごとの異なりがあると推定されるもの、及び 2.2 節の事例から、自他による語彙の識別が確認できる動詞を除外する。以下に一覧と除外する根拠を示す。

#### [幅広い意味をもつ語]

“we”・・・自分を含む場合と除く場合で語彙が異なる可能性がある。

“worm”・・・大きさや種類によって語彙が細かく分かれている可能性がある。

“back”・・・胸腹部の反対側のどの範囲を指すかによって語彙が細かく分かれている可能性がある。

<sup>6</sup>漢字について言うと、例えば “in” は、現代中国語の表記において “在・・・里” とする必要があり、1 語で表せないどころか、文法的機能に従って離れた位置に語が置かれることになるといった問題もある。

“to suck”・・・対象物の違いや細かい動作の違いによって語彙が細かく分かれている可能性がある。

“to fight”・・・規模によって語彙が細かく分かれている可能性がある。

“to cut”・・・対象物の違いや細かい動作の違いによって語彙が細かく分かれている可能性がある。

“to sit”・・・自動詞と他動詞で語彙が異なる可能性がある。

“to turn”・・・自動詞と他動詞で語彙が異なる可能性がある。

“to stand”・・・自動詞と他動詞で語彙が異なる可能性がある。

“to split”・・・対象物の違いや細かい動作の違いによって語彙が細かく分かれている可能性がある。

“dust”・・・さまざまな成分からなる細かなちりをまとめて捉える概念という点で、その範疇や区分に差異が生じる可能性がある。

“to burn”・・・自動詞と他動詞で語彙が異なる可能性がある。

“night”・・・時間帯によって語彙が細かく分かれている可能性がある。

“day”・・・時間帯によって語彙が細かく分かれている可能性がある。

文字化しにくい概念とは逆に、文字化しやすい概念についても、基本的な文字の語彙リスト含むには問題があることを既に述べたため、除外の対象とする。

これらの語彙は推測を基にしたものとなってしまうが、いくつか選別の際の注意点がある。まず視覚で認知できる具体的な概念が前提となる。そして2点目に、複雑ではない概念である必要がある。“wife”や“father”などのように、その関係性を字形のみで表すことが容易ではない字はこれに当たらない。3点目として、ある程度ものの切り取り方が1つに決まる概念でなければならない。例えば“fish”は、正面からや上の角度から、もしくは頭部のみ切り取った字は、何を表しているのかが不明瞭になるため想定しにくい。4点目に、特徴的な形をもつ概念である必要がある。一見文字化しやすいように見える概念でも、“knee”のように、字形上ではその特徴を見出しにくく、ほかの物との区別があいまいである概念もこれに当たらない。

また、例外として数を表す字の事例も文字化しやすいと言える。”one”, “two” などの数は視覚的に認知できる具体的な概念ではないが、容易にその特徴をはっきりと表すことができる。特に、指を使って可視的に勘定可能なことから、棒線や点画による指事的な表現が想定され、簡易的な筆画の構成という面でも共通点が生まれやすいため、除外の対象とする。

そして、これらの語彙は基本的な文字の語彙リストからは除外するもの、そのほかの目的では有用と考える。詳しくは 3.2 節や 3.4 節で述べる。

#### [文字化しやすい概念]

“one”, “two”, “three”, “four”, “five”, “human”, “fish”, “bird”, “flower”, “fruit”, “tree”, “bone”, “egg”, “horn”, “ear”, “eye”, “nose”, “mouth”, “tooth”, “tongue”, “foot”, “hand”, “wing”, “beast”, “to sleep”, “sun”, “moon”, “star”, “stone”, “fire”, “mountain”

一方で追加する語彙もある。スワデシュリストでは “right”, “left” のような空間的概念に関する語彙が不足していることから, “basis”, “corner”, “top”, “bottom” を追加する。また、Swadesh (1952) で追加された “heavy” の対義語となる “light” が含まれていないことから、これも追加する。

そしてリストの順番は、品詞や役割ごとに整理されたものを目指し、スワデシュリストの順番を一部改変している。主に名詞、動詞、形容詞の順とし、具体的には以下のカテゴリーに語彙を整理した。

#### [人や動物に関する名詞語彙]

“woman”, “man”, “child”, “wife”, “husband”, “mother”, “father”, “dog”, “louse”

#### [植物に関する名詞語彙]

“forest”, “stick”, “seed”, “leaf”, “root”, “bark”, “grass”

#### [体に関する名詞語彙]

“skin”, “meat”, “blood”, “fat”, “tail”, “feather”, “hair”, “head”, “fingernail”, “leg”, “knee”, “belly”, “guts”, “neck”, “heart”, “liver”

#### [水に関する名詞語彙]

“water”, “rain”, “river”, “lake”, “sea”, “cloud”, “fog”, “snow”, “ice”

[火に関する名詞語彙]

“smoke”, “ash”

[空間や構造関係に関する名詞語彙]

“right”, “left”, “basis”, “corner”, “top”, “bottom”

[色に関する名詞語彙]

“red”, “green”, “yellow”, “white”, “black”

[その他の名詞語彙]

“salt”, “sand”, “earth”, “road”, “year”, “name”

[頭部の動作に関する語彙]

“to drink”, “to eat”, “to bite”, “to suck”, “to spit”, “to vomit”, “to blow”, “to breathe”, “to laugh”, “to say”, “to sing”, “to see”, “to hear”, “to smell”

[認知や心理的活動に関する語彙]

“to know”, “to think”, “to fear”

[腕や手の動作に関する語彙]

“to hit”, “to spilt”, “to stab”, “to scratch”, “to dig”, “to hold”, “to squeeze”, “to rub”, “to wash”, “to wipe”, “to pull”, “to push”, “to throw”, “to tie”, “to sew”

[その他の動作に関する語彙]

“to live”, “to die”, “to kill”, “to hunt”, “to fly”, “to walk”, “to come”, “to lie”, “to fall”, “to give”, “to count”, “to play”, “to float”, “to flow”, “to freeze”, “to swell”

[形容詞]

“big”, “long”, “wide”, “thick”, “heavy”, “small”, “short”, “narrow”, “thin”, “light”, “warm”, “cold”, “full”, “new”, “old”, “good”, “bad”, “rotten”, “dirty”, “straight”, “round”, “sharp”, “dull”, “smooth”, “wet”, “dry”, “correct”, “near”, “far”

### 3.2 象形の具体度を測る文字の語彙リスト

基本的な文字の語彙リストから除外した語彙のうち、文字化しやすい概念については、「象形の具体度」(木村 2023: 26) という観点を見比べることが重要となってくると考える。これは、象形文字が基となった概念をどれだけ細部まで描いているかという指標である。図画性が低かったり、記

号化・線状化され、基となった概念が想像しにくいような文字は具体度が低く、事物の輪郭やある特徴をもってその字の象形としている。一方で絵文字に近く、事物の特徴が細部まで描かれ、一目でそれが指す意味を認識できる文字は具体度が高い。例えば、傾向としてトンバ文字は象形の具体度が非常に高く、絵文字に極めて近い。一方の彝文字は全体的に抽象的に描かれており、字から意味を推測するのは難しいため、これらの2つの文字の間の関連性は薄いとみられている (木村 2023: 30)。このように象形の具体度を測ることは、比較文字学において重要な文字間の共通性を見つける1つの観点になると考える。

文字化しやすいと考えられる概念もあいまいな定義であるが、本稿では3.1節での記述も踏まえ、「造字する際に、基となる事物の切り取る部位や角度がほぼ1つに決まっており、かつほかのものとの区別が字形上で明瞭である語彙」とする。つまり、造字する際に、切り取る部位や角度がいくつか考えられる語彙や、切り取る場所や角度はほぼ1つに決まっているが、ほかのものとの区別が字形上で明瞭ではなく、別の意符や音符を加えてその意味を明瞭化すると考えられる語彙は含まない。

基本的には3.1節で列举した語彙と同じであるが、そのうち、“fish”, “bird”, “fruit”, “flower” は後述の「語を象徴する概念を比べる文字のリスト」に、“one”, “two”, “three”, “four”, “five” は「数を表す文字の語彙リスト」に加えるため省く。

### 【象形の具体度を測る語彙】

“human”, “snake”, “tree”, “bone”, “egg”, “horn”, “ear”, “eye”, “nose”, “mouth”, “tooth”, “tongue”, “foot”, “hand”, “wing”, “breast”, “to sleep”, “sun”, “moon”, “star”, “stone”, “fire”, “mountain”

注意点として、この観点は表語文字の中でも発明型ではない、つまりほかの表語文字から技術的な着想を受けた借用型の文字体系<sup>7</sup>を含む比較に

<sup>7</sup>ここでは、木村他 (2022) における文字成立という観点からの分類を参考にしている。具体的には、文字の成立について、文字の発想・書字方向・文字の類型・字形・造字法の5つの借用の要素のうちいくつ借用しているかによって、借用型 (B型) と発明型 (I型) に大分する

対しては有用ではない。なぜならこれらの文字体系は、必然と生産性の高い合体字を中心とした体系になり (丁椿寿 1993: 26-27)、事物や事象をそのまま切り取り文字化する可能性が低いからである。

### 3.3 語を象徴する概念を比べる文字の語彙リスト

象形の具体度を測る語彙の例外として、ものの総称をあらわす語彙は、ものの総称として一般化するのにどれを代表させて象徴としているのかという点で各文字体系の特徴がわかる可能性がある。当然これらは事物をそのまま切り取って文字化されるとは限らないが、別途リストを作成することは有用であると考え。これに当たるのは 6 語のみであるため、本稿で提案するリストには、“plant”, “vehicle”, “tool”, “weapon” の 4 つの語彙を追加する。以下がその一覧である。

#### 【語を象徴する概念を比べる語彙】

“animal”, “fish”, “bird”, “worm”, “fruit”, “flower”, “plant”, “vehicle”, “tool”, “weapon”

このリストもまた、「象形の具体度を測る文字の語彙リスト」と同様の理由で、借用型の表語文字には有用ではないため、注意が必要である。

### 3.4 数を表す文字の語彙リスト

数を表す語彙としては、スワデシュリストの中にも “one”, “two”, “three”, “four”, “five” が含まれていた。これらは線画や点画の積み重ねで容易に文字化できるため、基本的な文字の語彙リストからは除外した。しかし、数を表す文字は、その特性からみて、その周辺地域に根付いた外来の文字を一式借りてくることが可能であるという点で極めて重要である。日本語表記体系においても漢字とは別にアラビア数字を一式借用しているように、その他の語彙とは異なった借用関係が見出される場合があると言える。

---

というものである。本稿でいう借用型の文字体系もこれを指し、表語文字で言えば漢字から影響を受けた契丹文字や女真文字が挙げられる。

ただし、ここで注意しておかなければならないのは、数を表す語彙の借用が認められた場合、その多くは日本語表記体系におけるアラビア数字体系のように、文字として成立した後の借用であり、言い換えれば、文字の成立時に影響を与えたり受けたりしたわけではないということである。このような点で、基本的な文字の語彙リストと比較文字学上の差異が見られる。

このリストには、0 から 10、そして 100、1000、10000 を含めることとする。

【数を表す語彙】

“zero”, “one”, “two”, “three”, “four”, “five”, “six”, “seven”, “eight”, “nine”, “ten”, “hundred”, “thousand”, “ten thousand”

3.5 文字の語彙リストの語彙一覧

最後に、文字の語彙リストの語彙を英語と日本語の 2 つの言語で表にして整理する。これは 4 つのリストから構成されているが、上述した借用型の表語文字などの比較対象となる文字の特徴によっては、すべて単純な字形の比較に用いても問題ない。

表 1：文字研究のための語彙リスト

| No. | 分類     | 語彙カテゴリー      | 英語      | 日本語 |
|-----|--------|--------------|---------|-----|
| 1   | 基本的な語彙 | 人や動物に関する名詞語彙 | woman   | 女性  |
| 2   |        |              | man     | 男性  |
| 3   |        |              | child   | 子   |
| 4   |        |              | wife    | 妻   |
| 5   |        |              | husband | 夫   |
| 6   |        |              | mother  | 母   |
| 7   |        |              | father  | 父   |
| 8   |        |              | dog     | 犬   |

|    |  |                |                       |        |
|----|--|----------------|-----------------------|--------|
| 9  |  | 植物に関する<br>名詞語彙 | louse                 | 虱      |
| 10 |  |                | forest                | 森      |
| 11 |  |                | stick                 | 枝      |
| 12 |  |                | seed                  | 種      |
| 13 |  |                | leaf                  | 葉      |
| 14 |  |                | root                  | 根      |
| 15 |  |                | bark<br>(of the tree) | 木皮     |
| 16 |  |                | grass                 | 草      |
| 17 |  | 体に関する<br>名詞語彙  | skin                  | 皮 / 皮膚 |
| 18 |  |                | meat (flesh)          | 肉      |
| 19 |  |                | blood                 | 血      |
| 20 |  |                | fat                   | 脂      |
| 21 |  |                | tail                  | 尻尾     |
| 22 |  |                | feather               | 羽      |
| 23 |  |                | hair                  | 髪      |
| 24 |  |                | head                  | 頭      |
| 25 |  |                | finger nail           | 爪      |
| 26 |  |                | leg                   | 脚      |
| 27 |  |                | knee                  | 膝      |
| 28 |  |                | belly                 | 腹      |
| 29 |  |                | guts                  | 腸      |
| 30 |  |                | neck                  | 首      |
| 31 |  |                | heart                 | 心      |
| 32 |  |                | liver                 | 肝      |
| 33 |  | 水に関する<br>名詞語彙  | water                 | 水      |
| 34 |  |                | rain                  | 雨      |
| 35 |  |                | river                 | 川      |
| 36 |  |                | lake                  | 湖      |
| 37 |  |                | sea                   | 海      |

|    |  |                         |          |       |
|----|--|-------------------------|----------|-------|
| 38 |  |                         | cloud    | 雲     |
| 39 |  |                         | fog      | 霧     |
| 40 |  |                         | snow     | 雪     |
| 41 |  |                         | ice      | 氷     |
| 42 |  | 火に関する<br>名詞語彙           | smoke    | 煙     |
| 43 |  |                         | ash      | 灰     |
| 44 |  | 空間や構造<br>関係に関する<br>名詞語彙 | right    | 右     |
| 45 |  |                         | left     | 左     |
| 46 |  |                         | basis    | 基 / 本 |
| 47 |  |                         | corner   | 角     |
| 48 |  |                         | top      | 頂点    |
| 49 |  |                         | bottom   | 底     |
| 50 |  | 色に関する<br>名詞語彙           | red      | 赤     |
| 51 |  |                         | green    | 緑     |
| 52 |  |                         | yellow   | 黄     |
| 53 |  |                         | white    | 白     |
| 54 |  |                         | black    | 黒     |
| 55 |  | その他の名<br>詞語彙            | salt     | 塩     |
| 56 |  |                         | sand     | 砂     |
| 57 |  |                         | earth    | 土     |
| 58 |  |                         | road     | 道     |
| 59 |  |                         | year     | 年     |
| 60 |  |                         | name     | 名前    |
| 61 |  | 頭部の動作<br>に関する語<br>彙     | to drink | 飲む    |
| 62 |  |                         | to eat   | 食べる   |
| 63 |  |                         | to bite  | 噛む    |
| 64 |  |                         | to suck  | 吸う    |
| 65 |  |                         | to spit  | 吐く    |
| 66 |  |                         | to vomit | 吐く    |
| 67 |  |                         | to blow  | 吹く    |

|    |  |                        |            |       |
|----|--|------------------------|------------|-------|
| 68 |  |                        | to breathe | 息する   |
| 69 |  |                        | to laugh   | 笑う    |
| 70 |  |                        | to say     | 言う    |
| 71 |  |                        | to sing    | 歌う    |
| 72 |  |                        | to see     | 見る    |
| 73 |  |                        | to hear    | 聞く    |
| 74 |  |                        | to smell   | 嗅ぐ    |
| 75 |  | 認知や心理<br>的活動に関<br>する語彙 | to know    | 知っている |
| 76 |  |                        | to think   | 思う    |
| 77 |  |                        | to fear    | 恐れる   |
| 78 |  | 腕や手の動<br>作に関する<br>語彙   | to hit     | 打つ    |
| 79 |  |                        | to spilt   | 割る    |
| 80 |  |                        | to stab    | 刺す    |
| 81 |  |                        | to scratch | 掻く    |
| 82 |  |                        | to dig     | 掘る    |
| 83 |  |                        | to hold    | 持つ    |
| 84 |  |                        | to squeeze | 絞る    |
| 85 |  |                        | to rub     | 擦る    |
| 86 |  |                        | to wash    | 洗う    |
| 87 |  |                        | to wipe    | 拭く    |
| 88 |  |                        | to pull    | 引く    |
| 89 |  |                        | to push    | 押す    |
| 90 |  |                        | to throw   | 投げる   |
| 91 |  |                        | to tie     | 結ぶ    |
| 92 |  |                        | to sew     | 縫う    |
| 93 |  | その他の動<br>作に関する<br>語彙   | to live    | 生きる   |
| 94 |  |                        | to die     | 死ぬ    |
| 95 |  |                        | to kill    | 殺す    |
| 96 |  |                        | to hunt    | 狩る    |
| 97 |  |                        | to fly     | 飛ぶ    |

|     |  |     |                          |           |
|-----|--|-----|--------------------------|-----------|
| 98  |  |     | to walk                  | 歩く        |
| 99  |  |     | to come                  | 来る        |
| 100 |  |     | to lie<br>(as in a bed)  | 寝る / 横たわる |
| 101 |  |     | to fall                  | 落ちる       |
| 102 |  |     | to give                  | 与える       |
| 103 |  |     | to count                 | 数える       |
| 104 |  |     | to play                  | 遊ぶ        |
| 105 |  |     | to float                 | 浮く        |
| 106 |  |     | to flow                  | 流れる       |
| 107 |  |     | to freeze                | 凍る        |
| 108 |  |     | to swell                 | 膨らむ       |
| 109 |  | 形容詞 | big                      | 大きい       |
| 110 |  |     | long                     | 長い        |
| 111 |  |     | wide                     | 広い        |
| 112 |  |     | thick                    | 厚い        |
| 113 |  |     | heavy                    | 重い        |
| 114 |  |     | small                    | 小さい       |
| 115 |  |     | short                    | 短い        |
| 116 |  |     | narrow                   | 狭い        |
| 117 |  |     | thin                     | 細い        |
| 118 |  |     | light                    | 軽い        |
| 119 |  |     | warm<br>(of the weather) | 暖かい       |
| 120 |  |     | cold<br>(of the weather) | 寒い        |
| 121 |  |     | full                     | 満ちた       |
| 122 |  |     | new                      | 新しい       |
| 123 |  |     | old                      | 古い        |
| 124 |  |     | good                     | 良い        |

|     |                     |  |                       |       |
|-----|---------------------|--|-----------------------|-------|
| 125 |                     |  | bad                   | 悪い    |
| 126 |                     |  | rotten                | 腐った   |
| 127 |                     |  | dirty                 | 汚い    |
| 128 |                     |  | straight              | 真っ直ぐな |
| 129 |                     |  | round                 | 丸い    |
| 130 |                     |  | sharp<br>(as a knife) | 鋭い    |
| 131 |                     |  | dull (as a knife)     | 鈍い    |
| 132 |                     |  | smooth                | 滑らかな  |
| 133 |                     |  | wet                   | 濡れた   |
| 134 |                     |  | dry                   | 乾いた   |
| 135 |                     |  | correct               | 正しい   |
| 136 |                     |  | near                  | 近い    |
| 137 |                     |  | far                   | 遠い    |
| 138 | 象形の具体<br>度を測る語<br>彙 |  | human                 | 人     |
| 139 |                     |  | snake                 | 蛇     |
| 140 |                     |  | tree                  | 木     |
| 141 |                     |  | bone                  | 骨     |
| 142 |                     |  | egg                   | 卵     |
| 143 |                     |  | horn                  | 角     |
| 144 |                     |  | ear                   | 耳     |
| 145 |                     |  | eye                   | 目     |
| 146 |                     |  | nose                  | 鼻     |
| 147 |                     |  | mouth                 | 口     |
| 148 |                     |  | tooth                 | 歯     |
| 149 |                     |  | tongue                | 舌     |
| 150 |                     |  | foot                  | 足     |
| 151 |                     |  | hand                  | 手     |
| 152 |                     |  | wing                  | 翼     |
| 153 |                     |  | breast                | 乳     |

|     |                |  |          |        |
|-----|----------------|--|----------|--------|
| 154 |                |  | to sleep | 寝る     |
| 155 |                |  | sun      | 日      |
| 156 |                |  | moon     | 月      |
| 157 |                |  | star     | 星      |
| 158 |                |  | stone    | 石      |
| 159 |                |  | fire     | 火      |
| 160 |                |  | mountain | 山      |
| 161 | 語を象徴する概念を比べる語彙 |  | animal   | 動物     |
| 162 |                |  | fish     | 魚      |
| 163 |                |  | bird     | 鳥      |
| 164 |                |  | worm     | 虫      |
| 165 |                |  | fruit    | 果物 / 実 |
| 166 |                |  | flower   | 花      |
| 167 |                |  | plant    | 植物     |
| 168 |                |  | vehicle  | 乗り物    |
| 169 |                |  | tool     | 道具     |
| 170 |                |  | weapon   | 武器     |
| 171 | 数を表す語彙         |  | zero     | 〇      |
| 172 |                |  | one      | 一      |
| 173 |                |  | two      | 二      |
| 174 |                |  | three    | 三      |
| 175 |                |  | four     | 四      |
| 176 |                |  | five     | 五      |
| 177 |                |  | six      | 六      |
| 178 |                |  | seven    | 七      |
| 179 |                |  | eight    | 八      |
| 180 |                |  | nine     | 九      |
| 181 |                |  | ten      | 十      |
| 182 |                |  | hundred  | 百      |
| 183 |                |  | thousand | 千      |

|     |  |              |   |
|-----|--|--------------|---|
| 184 |  | ten thousand | 万 |
|-----|--|--------------|---|

4 文字の語彙リストの比較観点について

ここでは、本稿で作成した文字の語彙リストにおける比較の観点について述べる。

まず、基本的な文字の語彙リストにおいて、その中心となるのは字形・字素の共通点の発見である。語という比較軸を用い、基礎的な語彙を表す字形をリストに記載したりマッピングすることにより、膨大な数を誇る表語文字の比較がサンプリングされるだけでなく、俯瞰的な字形の観察が可能となる。さらに共通点の発見から祖型の再建や歴史的な変化の推定が行われる。

2 点目に造字法と構成要素の比較である。世界の表語文字には造字法に関する共通性が指摘されている。彝文字の造字法に関する研究をした丁椿寿 (1993: 25) は、六書が表語文字に共通する普遍的な原理であると述べており、周有光 (1996) は、彝文字のほかにエジプト文字、楔形文字、トンバ文字、マヤ文字などの表語文字の性格を有する文字にも六書の原理が適応されるとしている。具体的な個々の文字体系に対する研究結果を見ても、彝文字の構成原理を分類した馬学良 (1986) や孔祥卿・史建偉 (2010) などでは、分化、転位法などといった独自の造字法が考案されていたり、漢字と同じレベルまでに達していないといった指摘はあるものの、象形文字・指事文字・会意文字・形声文字が存在するという点では漢字と似通った造字法が確認できる。さらに、ナシ族のトンバ文字の造字法について言及した西田 (1966) も、トンバ文字には同様の傾向がみられると指摘している。

当然文字体系全体としては、どのような造字法が見られるのかによって体系ごとの違いを把握できるが、それに伴い、個々の字の造字法、さらには字素の役割や意味といった構成要素にも共通性が見られる可能性がある。そしてこれの観点から、2 つの文字体系間でとある字について、造字法及びその字素の役割や配置も類似していることが発見された場合、字形だけ

では見えてこなかった字の系統関係を指摘できたり、祖型を導いたりすることができる。

3 点目に字形を象る角度という観点である。これは元となった事物をそのまま象って字として表現されるケースに限定される。この観点による共通性から、例えば、細部まで事物を描いた A 文字と輪郭のみを描いた B 文字のような字形上の差異があったとしても、さらに事物を象る角度を調べそれが同じであれば、B 文字は A 文字を参考に簡略化された文字である可能性を指摘できる。

数を表す語彙の比較観点は上記の 3 点目を除き同様であるが、一方で、象形の具体度を測る文字の語彙リストや語を象徴する概念を測る語彙リストにおける比較観点は、基本的な語彙リストにおけるものとは異なる。特に前者のリストでは、字形・字素の比較において発見される共通性は、偶然の一致の可能性があるため重要ではない。これらは、それぞれ象形の具体度と代表される事物を見比べることで、基本的な語彙リストからは見えてこなかった共通性や、文字体系全体としての特徴を見出すものになり、文字体系全体としての系統関係を明らかにする際に大きな助けとなる。

## 5 文字の語彙リストを用いた研究の可能性について

最後に文字の語彙リストの応用可能性について述べる。まず、追加の作業が必要となるが、文字体系のもつ基本筆画の抽出が可能となる。字というのは音声言語と同様に二重分節性が存在し、木村 (2024) は「筆画」が字の二重分節性を考えた際の第二分節に当たるものだと主張している。音声言語では二重分節性に従って、音素・形態素という区分があるように、字に関してもこれらの視点から研究を進めることは可能だと考える。特に、従来漠然とした字形の見た目から類似性を判断していた比較文字学研究においては、新たな重要な比較項目となる要素である。

これまで、語という比較軸を設定しない場合には、基本筆画をすべての字形の中から抽出する必要があった。本稿で提示した文字の語彙リストを利用することで、ある程度その文字体系に備わっている筆画を抜き出すことができると考える。この点を検証するには、リストで挙げられた各字形

から全ての筆画を抜き出し、そこから一般的に用いられている筆画を定める作業が必要となる。これによって、例えば曲線が多い、筆画の最後にはねるなど、文字体系ごとの筆画の違いや共通性を見ることができる。

そして、これと同じ方式で字形の抽出も可能となる。語を比較軸としたリストだけを用いた場合、語を基にした借用しか考慮されないという欠点がある。つまり、字というのは、その形のみが借用される可能性もあるということである。例えば、チェロキー文字はラテン文字から字形を借用しているが、音価の借用はなく、文字の種類も単音文字ではなく音節文字として機能している。このような事例から、字形のみの比較というのにも必要となる。表語文字のすべての字形の総当たりの比較は不可能に近いが、文字の語彙リストから抽出した字形から、ある程度文字体系全体として類似している字形を見ることができると考える。また、そこから逆の手順で意味や音価に類似性がないかを探ることで、見えてこなかった系統関係が明らかになるかもしれない。

本稿で作成した文字の語彙リストは暫定的なものであり、その必要性や目的に合わせて変化していくことは大いに考えられる。さらに、今後実際にリストを活用した研究を行うことで問題点を発見し、さらなる改善を図っていく。

#### 【参考文献】

- 小川環樹・西田太一郎・赤塚忠・阿辻哲次・釜谷武志・木津祐子 (編) (2017) 『角川新字源改訂新版』角川書店.
- 木村規高・原将吾・池田潤 (2022) 「文字成立の分類に関する試論」『一般言語学論叢』第 25 号: 1-73.
- 木村規高 (2023) 『イ文字の成立に関する一考察』修士論文, 筑波大学.
- 木村規高 (2024) 「文字研究の基礎分野の検討」『一般言語学論叢』第 26 / 27 号.
- 西田龍雄 (1966) 『生きている象形文字 モソ族の文化』中公新書.
- 丁椿寿 (1993) 『彝文論』四川民族出版社.
- 方国瑜 (2017) 『纳西象形文字譜』雲南人民出版社、雲南大学出版社.
- 孔祥卿・史建偉 (2010) 『漢字与彝文的比較研究』南開大学出版社.

- 李霖燦 (2001)『納西象形標音文字字典』雲南民族出版社.
- 馬學良 (1986)「再論彝文“書同文”的問題——兼論彝文的性質」『中央民族學院學報』第 2 期: 82-85.
- 武自立・紀嘉堯 (編) (2011)『漢彝簡明詞典』四川出版集團、四川民族出版社.
- 喻遂生 (2008)『納西東巴文研究叢稿 (第二編)』四川出版集團.
- 周有光 (1996)「六書有普遍適用性」『中國社會科學』第 5 期: 153-170.
- 周有光 (2002)『周有光語文論集第三卷』上海出版社.
- Iwasa, Kazue (2018) *Remarks on Maps of the Yi Script Based on the Swadesh 100 Wordlist*, Studies in Asian Geolinguistics, Monograph Series No.5. Research Institute for Language and Cultures of Asia and Africa, Tokyo University of Foreign Studies.
- Swadesh, Morris (1952) 'Lexico-Statistic Dating of Prehistoric Ethnic Contacts: With Special Reference to North American Indians and Eskimos'. *Proceedings of the American Philosophical Society, Studies of Historical Documents in the Library of the American Philosophical Society, University of Pennsylvania Press* 96 (4): 452-456.

# A Development of a Vocabulary List for Logographic Character Comparison: A Step toward Comparative Grammatology

Noritaka KIMURA

This study attempts to create a list (hereafter referred to as the "character list") that can be utilized in the study of comparative grammatology, including the measurement of the distances between two writing systems and the comparison of characters. Traditionally, the Swadesh list, a vocabulary list compiled for measuring the distance between languages, conducting linguistic surveys, and creating artificial languages, has been used. However, the Swadesh list was originally designed for spoken language research, and its application to the study of written languages requires reconsideration.

Problems associated with the use of the Swadesh list were identified, leading to the exclusion of vocabulary irrelevant to written languages, while new terms deemed important for written languages were added. It was also noted that comparisons could be made not only based on simple character shapes but also from the perspective of the principles of character creation, and the list was structured accordingly. In addition to the basic character list, three supplementary lists were developed: one for measuring the concreteness of pictograms, one for comparing the symbolic concepts of words, and one for characters representing numbers.

This approach resolves the long-standing issue of comparative vocabulary being arbitrarily and conveniently selected, and also facilitates the comparison of logographic writing systems, which can encompass tens of thousands of characters. Furthermore, by incorporating the principles of character creation and creating

multiple character lists, it is proposed that character comparisons can be made from a multifaceted perspective, extending beyond simple character shapes.

*Doctoral Program in Humanities and Social Sciences*

*University of Tsukuba*

*1-1-1 Tennodai, Tsukuba, Ibaraki 305-8571, Japan*

*E-mail: kimura.noritaka298@gmail.com*